

診療所長 今月の二句 号外

平成二十六年五月 号外

去る四月、小生の所属する前橋医師会俳句部部長の、秋草 先生から、「群馬県保険医協会新聞五月号に掲載予定の、俳壇のコーナーに、岸川 先生を、推薦したいから、よろしく。」と、突然の「ご下命」あり。はたと、困ってしまい、せつかくのゴールデン・ウィークは、大変苦しみました。普段、感じていることを、俳句にすればいいだけとの結論に到り、手前味噌で、気が引けましたが、昨年八月二十四日に誕生した、小生の初孫、翠成（すいせい）・♂への、誕生からの偽らざる思いを、俳句にしてみました。

初 孫

昨年、夏、初孫が誕生しました。この五月までの半年に感じたことを、拙句にしてみました。

夏の夜の どの星の下 もと 生まれしや

襦むしき換ゆ 赤子せきしに優し 秋の陽ひよ

初参り 菊花きっかの時期に 済ませおり

正月の 酒初孫はつまごを 求めたり

震ふるゆ手は 寒さにあらず 初対面しよたいめん

待ち待たり 卑月なつきにならば 訪ねん